

花風ミニデー イを始める

さて、二号館一階の多目的フロアーは実に多目的で、クラシックやジャズ、フォークのコンサート会場になったり、土曜日には「居酒屋」になったり、各種講習会場になったりと活用されるようになりました。

その中で大きく育っていったのが、保険外サービスの「花風ミニデー」部門でした。このミニデーには「花風」がある西区だけではなく、他区のケアマネの依頼で利用者が訪れました。その誰もが、他のデイサービスでは利用が難しかったり、実際に利用をやりわりと断られた方たちでした。

例えば、徘徊が強度で目を離すと戸外に出て行ってしまったり、他の利用者に暴力をふるう方だったり、午前中に起床することが難しい方や、対人恐怖症の方などでした。利用開始前には「花風家族会議」で下宿人たちの了解をとりました。さまざまな「問題行動」と言われる症状で、私を翻弄(ほんろう)した下宿人たちはその頃には概ね落ち着きを見せていて、「いろいろなお客さんが毎日来るのは良いことだ」という認識でうなずいてくれました。

ミニデーの利用者は当初登録者三人でしたが、三方月後には十二人になっていました。それぞれ週一回か二回の利用でしたが、日曜日も含めて毎日という方も一人いました。事前にケアマネから情報をもらい、ご本人と面接をしていても実際利用していただく段階になると、驚くことが多々ありました。

例えば、午前中に起床することが難しくても、中止された男性は、迎えに行った

例えば、午前中に起床することが難しくても、中止された男性は、迎えに行った

花風屋繁盛記

連載12

人と人がつながって



NPO法人在宅生活支援
サービスホーム花風

木村美和子理事長

私の家じゃない。どうしてこんなところに連れてきたの！と怒りまくり、車の中に毎度籠城する女性。「なるほど」と深く納得されるような、一筋縄ではいかない「面々」でした。

「デイサービス花風」をつくらう

そんな「面々」も利用を重ねて日がたつほどに、違和感なく下宿人にとけ込み、生き生き

そんな「面々」も利用を重ねて日がたつほどに、違和感なく下宿人にとけ込み、生き生き



保育園とも交流し、学芸会も。花風2号館1階はいろんな楽しいことがある場にした

保育園とも交流し、学芸会も。花風2号館1階はいろんな楽しいことがある場にした

こうして、いつもながら早い展開で「デイサービス花風」構想が具体化されました。

改修が進む中で

ところが、開設までは六カ月がかりでしたが、なぜかというところ、Mさんの持ち家は、昭和四十三年築の建物だったので老朽していました。「花風」にはいつもながら資金に余裕がありません。最小限の改修だけプロの大手さんに頼み、残り私は私を含めてスタッフ全員がかかわって行ったからでした。ボランティアを申し出たT建築士の指示のもと壁を取り外したり、床張りをしたり、壁や天井にペンキを塗ったり。本来の業務の間を縫って作業は進められました。

そんな中この地域の高齢女性Iさんが、荒れ果てていたこの家の広い庭の整地を申し出てくれました。Iさんは「みんな、この地域に気軽な集いの場所ができるのを楽しみにしているんだから。手伝うのは当たり前のこと」と言った後、「亡くなったこの家のご主人もい人だったし、Mさんもいい人だから、この家を使ってくれてありがとう」という言葉を加えました。亡くなった後も人は、誰かと誰かをつなげることができると実感したこの時でした。